

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月20日

千葉県知事 熊谷俊人 殿

提出者

住所 習志野市藤崎1丁目1番13号

氏名 習志野市企業局

習志野市企業管理者 市川 隆 幸

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-451-2291

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	習志野市津田沼浄化センター
事業場の所在地	習志野市芝園3丁目3番1号
計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	大分類：電気・ガス・熱供給・水道業 中分類：水道業
② 事業の規模	汚泥年間発生量 144962.69 t (令和4年度実績)
③ 従業員数	38人(市職員(会計年度職員含む)9人、委託会社29人)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>○生汚泥・余剰汚泥の脱水工程 → 汚泥(脱水ケーキ) → 委託処理 →</p> <p> { 中間処理：焼却・固型化 → 全量：人工軽量骨材で再利用</p> <p> { 中間処理：焼却・溶融固化 → 全量：路盤材で再利用</p> <p> { 中間処理：溶融 → 陸上埋立 → 一部スラグ：売却</p> <p>○沈砂工程 → 汚泥(沈砂・し査) → 委託処理(中間処理：溶融) →</p> <p> { 陸上埋立 → 一部スラグ：売却</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項					
(管理体制図)					
<table border="1"><tr><td>総括責任者：津田沼浄化センター所長</td></tr><tr><td style="text-align: center;">↓</td></tr><tr><td>汚泥処理班（廃棄物減量化 担当者）</td></tr></table>			総括責任者：津田沼浄化センター所長	↓	汚泥処理班（廃棄物減量化 担当者）
総括責任者：津田沼浄化センター所長					
↓					
汚泥処理班（廃棄物減量化 担当者）					
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					
①現状	【前年度（令和4年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥			
	排 出 量	1 4 4 9 6 2 . 6 9 t			
	(これまでに実施した取組) 高度処理の返送汚泥等により窒素分の除去を行った。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥			
	排 出 量	1 3 4 9 9 1 . 0 8 t			
	(今後実施する予定の取組) 包括的維持管理業務委託により民間企業のノウハウをとり入れた効率的な汚水処理を行い、汚泥排出量の減量化を進める。				
産業廃棄物の分別に関する事項					
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥の内、脱水ケーキと沈砂・し渣を分別して処理している。				
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥は脱水ケーキと沈砂・し渣を分別して処理する。				

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	
	（これまでに実施した取組） 実施無し。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	
	（今後実施する予定の取組） 実施予定無し。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	135476.77 t	
（これまでに実施した取組） 平成27年度に機械濃縮機を導入して機械濃縮の割合を高め、汚泥の減量化を図っている。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	124991.08 t	
（今後実施する予定の取組） 高分子凝集剤の検討及び機械濃縮機等の適切な運転管理で、汚泥の脱水作業の効率化を図る。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	
	(これまでに実施した取組) 実施無し。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	
	(今後実施する予定の取組) 実施予定無し。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	全 処 理 委 託 量	9485.92 t	
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	2056.94 t	
	再生利用業者への処 理 委 託 量	2960.12 t	
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	2172.88 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	0.00 t	
	(これまでに実施した取組) 汚泥の凝集剤として高分子凝集剤を添加し、また、脱水機の適切な運転管理を行うことにより、脱水ケーキの含水率を下げ、減量化を図っている。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	全 処 理 委 託 量	1 0 4 5 5 . 0 0 t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	2 7 5 5 . 0 0 t	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	4 0 0 0 . 0 0 t	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	2 2 0 0 . 0 0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 . 0 0 t	
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>高分子凝集剤の使用を検討するとともに、機械濃縮機及び重力濃縮等の適正な運転管理により脱水作業の効率化を図り、脱水ケーキの減量化を目指す。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。